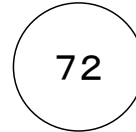


令和元年度（平成31年度） 学校自己評価表 （計画段階 ・ **実施段階**）



福岡県立大牟田北高等学校長 印

学校運営計画（4月）				評価（3月）		
学校運営方針		北高“新”時代（北高改革 セカンドステージ）のさらなる進化 ～組織的、協働的に教育内容の充実を図り、新学習指導要領及び高大接続改革に対応していく～ 生徒達は、人生100年と言われる今日、21世紀中盤に活躍することを期待されている。本校では、自分の夢を持ち実現させ、新たな夢を追いかける生涯学習のための基礎・基本の定着を図るため次の5項目を重点目標とする。この目標を達成するために、全職員が、組織的、協働的に教育内容の改善、充実に努める。				
昨年度の成果と課題		重点目標	具体的目標			
<p>平成30年度重点目標の一つである生徒の第一希望での進路完全実現は、生徒達の努力と全職員によるきめ細やかな指導によりほぼ達成する事ができた。特に公務員へのべ8名合格すると共に、大学・短大への合格者数も格段に向上した。また、就職希望者のほぼ全員が内定している。本年度も5コース制の特色をいかしながら生徒達の希望進路実現に向けて取組んでいく。</p> <p>課題としては、些細な事や思い違いから生徒間のトラブルが起こった。今後コミュニケーション能力の育成を充実させながら、生徒一人ひとりが大切にされていると実感できる学校づくりを推進していく。広報活動については、教育環境、学校行事及び部活動などの教育活動を掲載するなどホームページを充実するとともに、定期的に中学校を訪問し定員確保に努める。</p>		(1) 自尊感情と規範意識を高め、生徒が自分の良さに気づき、いじめが撲滅された秩序ある学び舎をつくる。	ア いじめのない学校をつくりあげる。（早期発見、早期対応の実現） イ 積極的生徒指導を推進する。（ハートフル賞の活用）	B		
		(2) カリキュラム・マネジメントの充実を図り、教科指導力と生徒指導力を高め、生徒の自立と自律につながる力を育成する。	ア 教師としての指導力を向上させ生徒一人ひとりに対して丁寧な誠実に指導する。 イ 授業アンケート等、モニタリングを積極的に活用し生徒の授業満足度を高める。 ウ 生徒の自己ベストを引き出すことにより、自立につながる学力を育成する。 エ 5コースそれぞれの特色に応じた指導を行う。			
		(3) 3年間を見通したキャリア教育を行い、生徒に将来の目標を持たせ第一希望での進路完全実現を目指す。	ア 進路指導部を中心として体験型のキャリア教育の推進を図る。 イ 生徒の第一希望での進路完全実現を目指す。 ウ 進路マップに基づく進路指導を推進し、自己ベストを達成させる。			
		(4) 学校行事、部活動を活性化させ、教育活動を積極的に発信し中学生が憧れる北高づくりを進め、常に定員確保に努める。	ア 生徒が、北高で学ぶことの喜びや主体的に生き生きと活動する姿をアピールする。 イ 全職員が、「北高の広報担当者である」という意識を持ち、教育内容を積極的に発信する。 ウ ESD（持続可能な開発のための教育）等を通して小・中学校と積極的に連携を図り、総合的な探究の時間を推進する。			
		(5) 地域、保護者との連携を深め、学校と地域、保護者が共に生徒を育てる環境をつくることを推進する。	ア 生徒の将来の自立に向け、職員と保護者が北高教育の在るべき姿について共通理解を図り、その上に立った指導を行う。 イ 高大接続改革を研究し、地域、保護者に積極的に広報する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題	
教務部	教科指導力を高め、北高の教育に期待して入学してきた生徒を満足させ、生徒の自立につながる学力を養成する。	「授業始め」の黙想や挨拶の徹底（挨拶時は椅子を机に入れる）のために教室掲示を行い、教務オリエンテーションで説明する。	B	B	<p>観点別評価実施に向けて教務規定を改定する。</p> <p>授業アンケートの内容を充実させる。</p> <p>学び直しを見直し充実させる。</p> <p>単位制高校フレックス型への円滑な改編に向けて準備を進めていく。</p>	
		「学び直し」「成績向上のための指導」を実施する。	B			
		授業アンケートを実施し授業改善に努め、課題の発見解決に向けた主体的で協働的で深い学びを推進する。	C			
	生徒の実態を踏まえた質の高い教育を行うため、教育課程・教務規定の改善を行う等、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	教科主任会・教育課程検討委員会で、新学習指導要領及び高大接続改革に対応できる類型別教育課程を検討し、改善を図る。	B	B		
		昨年度の反省を踏まえ、教務規定を改善する。	C			
		ありあけ新世高校との連携について、今年度の成果を活かし、単位互換に向けた準備等を行う。	B			
	地域からの信頼を高めるために、本校教育の特色を発信する。	他の分掌と連携して、学校説明会・入試相談会を実施する。	A	A		
		中学校進路相談会や体験入学等で「学び直し」や「5コース制」についてPRする。	A			
		ホームページ等を活用して、本校教育の特色を発信する。	B			
	企画運営課	校内業務やスケジュールの連携と調整を図り、「チーム一丸力」を高める。	早めの準備・起案を行う。	B		B
関係部署との打合せを綿密に行う。			B			
旧年度の反省を本年度の実施に活かす。			A			
中学校や地域との連携を深め、志願倍率1.0倍以上の回復に努める。		中学校訪問等で生徒の情報交換を定期的に行う。	B	B		
		広報紙やHP等でタイムリーな話題や特色ある取り組みを発信する。	B			
		地域活動を積極的に紹介し、参加・協力する体制をつくる。	C			
		本校教育活動を発信する機会を増やし、共有していく。	B			
父母教師会との連携をさらに深め、諸行事の円滑な運営を行う。	体育大会運営補佐など学校行事の参加協力体制をつくる。	A	B			
	北高鍋、大蛇山総踊りなど、保護者が生徒と触れ合う機会を充実させる。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題		
生徒指導部	生徒指導課	積極的生徒指導を展開することにより、自尊感情と規範意識を高める。	日常において、時間厳守、校内美化、挨拶や言葉遣い等の態度を身に着けさせる。	B	B	挨拶、言葉遣い、端正な服装の積極的な指導を行い、「北高スタイル」の重要性について再認識させる。 生徒達に生命の大切さを理解させるとともに、教員間で連携しながらいじめを未然に防ぐ指導を行う。 委員会活動、部活動、ボランティア活動をさらに活性化させ、生徒の自主性と道徳心を醸成する。 交通ルール遵守や交通事故防止などの交通安全指導を充実させる。	
			校内風紀の維持・向上を図るために、服装・頭髪検査を定期的実施する。	B			
			道徳教育を推進するとともに、「北高スタイル」を奨励し、暗唱度90%及び実行度80%を目指す。	B			
		学校安全の充実を図り、自他の安全に対する意識を高め、安全に行動する態度を育成する。	交通安全意識の高揚と事故等防止の実践的態度を育成するため、自転車点検や交通安全教室等を実施する。	B			A
			諸犯罪に適切に対応できる態度を育成するために、薬物乱用防止教育や暴力団排除教育等を実施する。	A			
			学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行い、いじめの未然防止、早期発見、適切な措置に努める。	A			
		体験的諸活動を通して、豊かな人間性の育成や心身の調和のとれた発達を促進する。	生徒会活動や委員会活動及び学校行事において役割や責任を与え、主体的な態度を育成する。	B	B		
		部活動加入率70%を達成するために新入生体験入部期間を充実させるとともに、部活動の活性化に努める。	B				
		奉仕活動等の積極的参加を促し、ハートフル賞表彰者200名以上を目指す。	A				
	保健課	心身の健康保持・増進に積極的に取り組める生徒の育成に努める。	健康診断の結果を活用し、積極的に受診するなど、生徒自らが心身の健康管理に注意する態度を養う。	B	B	教育相談委員会やアンケートを活用し、生徒の変化を見逃さないようにする。 スクールカウンセラーとの連携を密にししながら、生徒の相談などに丁寧に対応する。 定期健康診断や体育的行事における健康診断により生徒の健康管理を充実させる。 生徒保健委員会や生徒美化委員会の活性化を図る。	
			学年・教育相談委員会・スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒の支援に努める。	A			
			「学校生活アンケート」の活用・保健室利用状況分析による生徒の変化を早期に発見する。	B			
環境美化活動により、学習環境を整える。		毎日の清掃活動の充実を図り、学習環境の整理整頓に努めさせる。	B	B			
		毎学期の美化目標を設定する。	C				
		ゴミの減量化を目指し、ゴミの分別についてオリエンテーションを行い意識を高める。	B				
健康的で安全に学校生活を送れるように、健康安全意識の高揚を図る。	危機管理マニュアルの徹底を図り、部活動や授業時における事故やけがの防止と早期対応に努める。	A	A				
	体育的な行事の際に校医による健康相談を実施し、事故防止に務める。	B					
	健康教育推進事業（性と心の健康診断）の実施と効果的な活用を図る。	A					
進路指導部	進路指導課	5コース制を活かし第一希望での進路を実現させる。	本校の生徒としてふさわしい挨拶・言葉遣い・身だしなみ等に対する意識と誇りを持たせ、進路意識の向上に繋げ、個々の生徒の希望達成を目指す。	C	B	進学希望者に対して受験科目や配点等の最新の情報を発信して第一希望での進路実現を支援する。 課外授業、土曜セミナーにClassiの導入を検討する。 総合的な探究委員会を設置して総合的な探究の時間を充実させる。 推薦規定の見直し、周知徹底を図る。 ホームページを活用して、進路実績の広報を実施する。	
			オープンキャンパスへの参加や進路ガイダンス等の実施をとおして大学等の知識を身に付けさせ、希望進路に対する意識を育てる。	A			
			模試の結果等をもとに、担任による面談を適宜実施し、最後まであきらめさせない指導を行う。	B			
		進路実現のための学力保障ができるように、進路指導体制を充実させる。	生徒の学力の推移や分析を活用し、家庭学習や外部講座受講等様々な機会を捉え学習する習慣を作る。	B			B
			スタディーサポートや模擬試験を活用し、生徒一人一人の進路指導に反映させる。	B			
			進路マップに基づき、年々変化する生徒に対して柔軟な対応をしていく。	B			
	地域や保護者に本校の進路指導の取り組みや成果の情報を発信する。	生徒や保護者へ有益な「進路の手引き」を作成する。	A	B			
		ホームページ等で進路情報を提供する。	A				
		縦看板等を利用し、地域へ情報を発信する。	C				
	研修課	本校の課題に対応した研修を行い、一人一人の資質の向上に繋げる。	十分な時間を確保できるように、考査時に実施する。	A	A	校内研修をさらに充実させるために、外部機関等も積極的に活用する。また、ワークショップ形式の研修を取入れ幅広い意見交換を行う。 研究授業を充実させ、同じ教科の教員が多く参観できるよう工夫する。	
			生徒の現状や教育課題を考慮した内容を行う。	A			
			ありあけ新世高校との合同研修会を実施して、両校の連携を深める。	B			
公開授業・研究授業を活性化させ、教科指導力の向上を図る。		公開授業期間に、2回以上他の教師(他教科も含めて)の授業を参観する。	A	B			
		本年度の研究授業は、地歴科、保健体育科、英語科が行う。	B				
		学習指導案は授業構想メモを使用し、研究協議会はワークショップ形式とする。	B				
OJT研修を充実させ、組織的に人材を育成するシステムを構築する。		OJT推進組織の整備を進める。	A	A			
		学校教育目標に基づいて適切な目標設定を行う。	A				
		目標管理を軸としたメンタリングを行う。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
第1学年	自己理解・自己管理能力を高める。	マイノートの活用と面談の確保。	B	B	B	2年次の総合的な探究の時間において、SDGsや実習を実施する。 総合的な探究の時間やキャリアパスポートの取組みなどさらに計画的なキャリア教育に取り組む。 欠席と遅刻を減少させるとともに、学習習慣の定着を図る。
		HRや学年集会で自尊感情を育むための講話を盛り込む。	A			
		6割以上の皆勤を果たすため、学期ごとに表彰する。	B			
	人間関係形成・社会形成能力を身に付ける。	係活動や清掃は1人1役とする。	B	C		
		部活動加入率80%、参加率90%を達成するため、部顧問との連携を強化する。	C			
		北高スタイル第1条「立ち止まって挨拶する」の指導を徹底する。	C			
課題解決能力・キャリアプランニング能力を身に付ける。	「朝の時間」を有効活用するため、計画的に実施する。	A	A			
	進路指導部と連携し、キャリア教育を計画的に実施する。	A				
	学習ガイダンスを計画的に実施しながら、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	B				
第2学年	積極的な生徒指導、教科指導	自尊感情と規範意識を高めることができるように、タイミングを逃さない指導をする。	B	C	B	第1希望での進路実現に向けて、学習習慣の定着と共通テスト等の対策を継続的に指導していく。 生徒達に卒業後の姿を意識させながら自己管理能力の育成を図る。 学校行事や部活動、ボランティア活動等において、最上級生としての意識を持たせ積極的に行動させる。
		生活のリズムを整えることを大切にし、5割以上の皆勤を達成する。	C			
		授業、朝課外、個別添削を充実させ、効果的に学力の定着を図る。	C			
	充実した進路指導、キャリア教育	事前準備を充実させ、修学旅行の企業訪問へ積極的に取り組む。	B	B		
		キャンパス3デイズ、インターンシップを実施し、満足度80%を達成する。	C			
		マイノートを有効に活用し、学んだことを自分の言葉で記録する習慣を身に付ける。	B			
	学校・学年行事、部活動、ボランティア活動の活性化	一人1リーダーを意識させ、積極的に学校・学年行事や部活動等に関わり満足度80%を達成する。	B	B		
		学校行事や部活動では3年生から中心的役割を受け継ぎ、さらに充実した活動につなげる。	B			
		ボランティア活動に1年間に少なくとも1回は参加し、奉仕の精神を養う。	B			
第3学年	自己管理能力を高め、社会形成能力を身に付ける	全員に1ヵ年皆勤表彰を目指させ、皆勤率6割を目指す	C	B	B	1年次より学力向上に向けた学習習慣や資格取得への意欲を醸成していくために継続的な指導を行う。また、生徒が興味関心を持つような授業の改善や工夫を行う。 基本的な生活習慣の育成のために継続的な指導を行う。 コミュニケーション能力を向上させ、よりよい人間関係を構築させる。
		1年間を4分割し、それぞれで行動に移せる目標設定をさせる	B			
		リーダーとしてのリーダーシップ、フォロワーとしてのリーダーシップ（進化版一人1リーダー）を意識させる	B			
	課題対応能力・キャリアプランニング能力を身に付ける	<small>各時期において自己ベスト宣言をさせる。さらに到達までの段階をスキルステップ化して具体的な行動に結びつけられるようにし、達成度を自分で評価できるようにする（視察の見える化）</small>	B	B		
		進路決定が最終目標ではないことを意識させ、進路決定後も卒業までをどう過ごすかについての目標と計画を立てさせる	B			
		進路決定後の「一人1企画」。社会貢献活動を企画させて実行させる。	B			
	社会で通用する学力と学び続ける力を身に付ける	放課後、学習コーナーなどでの居残り学習を定着化させる	C	C		
		長期休業中の学習会を企画し、実施する	B			
		進路決定後も読書と資格取得に挑戦させ、上位級を取得して卒業できるよう、計画作成と達成度の評価をする	C			
事務部	教育施設環境の充実について	生徒の安全を考慮して、施設の維持管理に努める。	A	B	A	教育活動の充実と生徒の安全を考慮しながら担当教員と連携して施設設備を充実させる。 単位制高校フレックス型への改編に向けて、計画的に設立準備に取り組む。 来校者や電話対応については、迅速丁寧な対応を行う。 ホームページの充実を図る。
		教育施設、設備の充実を図る。	B			
		教員との連携を深め、より良い教育機器の拡充をする。	B			
	予算の効率的な執行及び適正な会計処理について	生徒募集により結びつくような予算処置配分を行う。	B	A		
		需用費、備品等の購入については、必要性や緊急性を備えているかを考慮する。	A			
		旅費の執行については、必要性を十分確認する。	A			
	接遇の向上について	外部の人に対する渉外については、誤解が生じないように丁寧な説明を心がける。	A	A		
		電話対応では事務室が最初に対応するので正確、迅速に行う。	A			
		職員の対応に当たっては、相手の意見を十分に聴くこと。	A			